

ゲリラ豪雨をつかまえろ

7月19日夕方、千葉県船橋市の会社員、石倉勝(44)は南東の空を見上げた。灰色の分厚い雲が立ちこめている。「ちよっど心配です。これから荒れるのかな」とコメントを作成、雲の写真とともにメール送信した。写真どともにメール送信した。急

送りは気象会社「エザピー」に増水した川で子供を含む5人の命が奪われた。大急ぎで準備本部。同社は一般から募った全国3万3千人の「隊員」の協力を得て、「怪しい雲」の画像や体感の変化といった情報を集め、この日は全国的に大気が不安定で、通常の2倍以上、約1万4千通の報告があった。

積乱雲は急激に発達して大雨や突風を巻き起こす。気象庁が5分ごとに更新する雨量レーダーの画像だけでは、数分単位の時間でも大きく変わる気象の追跡には限界がある。

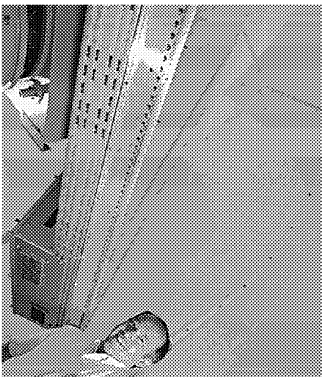
本部では集めた情報を雨量レーダーなどのデータとあわせて分析する。ゲリラ豪雨が起りやすい地域を特定、30分前に高さ5分の白いドームに設置した。同大工学学部棟の屋上

牛尾は200年ごろから学会などで高性能レーダーを作るべきだと訴えた。周囲の反応は冷やかで、東芝からも一度は共同研究を断られた。今やその必要性を理解しない人はいない。「データを見れば反応がころと変わる」。追

当の挑戦はこれからだ。牛尾は200年ごろから学会などで高性能レーダーを作るべきだと訴えた。周囲の反応は冷やかで、東芝からも一度は共同研究を断られた。今やその必要性を理解しない人はいない。「データを見れば反応がころと変わる」。追

オリジナルではわからない間の目や肌感覚の情報を集め、これを直前だと、と判断する」と語る。

ゲリラ雷雨防衛隊ができたのは2008年7月に神戸で起こった災害がきっかけだった。急に増水した川で子供を含む5人の命が奪われた。大急ぎで準備本部。同社は一般から募った全国3万3千人の「隊員」の協力を得て、「怪しい雲」の画像や体感の変化といった情報を集め、この日は全国的に大気が不安定で、通常の2倍以上、約1万4千通の報告があった。積乱雲は急激に発達して大雨や突風を巻き起こす。気象庁が5分ごとに更新する雨量レーダーの画像だけでは、数分単位の時間でも大きく変わる気象の追跡には限界がある。本部では集めた情報を雨量レーダーなどのデータとあわせて分析する。ゲリラ豪雨が起りやすい地域を特定、30分前に高さ5分の白いドームに設置してから、いくつもデータを蓄積してきた。ゲリラ豪雨の兆しをつかめるまでになったが、本



屋上に設置したドームの中で、四方のレーダーが回転しながら雲を監視(大阪工学部)